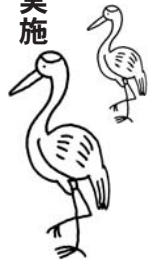


ツルの飛来を夢見て

「冬水田んぼ」による地下水かん養を実施



11月2日、ミナテラス(町交流情報センター)で、本町とサントリーホールディングス(株)(東京都港区)、町土地改良区の三者による「冬水田んぼ」の協定締結が行われました。

これは、地下への浸透能力の高い下陳地区(津森)の水田が休耕する11月から3月にかけて水を張り、地下水をかん養することを目的としています。

式の中で住永町長は「貴重な水源のかん養と同時に、冬の水田にツルが飛来し、ここで取れるコメのブランド化を期待したい」とあいさつしました。

式終了後、関係者は現地で「たん水式」に臨み、地元を流れる金山川の水門を開け3分の水田に水を張りました。

01_左から、握手を交わす船原幸信(益城地域振興局長)、上田一生(土地改良区理事長)、住永町長、サントリーの内貴(エコ戦略本部長)
02_三者の旗揚げでたん水開始
03_たん水後、水田に水が張られる様子をじっくりと確認する関係者



華やかな文化に浸る

今回で20回という節目を迎える益城町文化祭が、「人の和と芸術」を創り、楽しむ「益城の文化」をテーマに華やかに開催されました。今年も町文化協会(末武有二会長)の主催で、10月23日、24日に町公民館と町民体育館で展示部門が、10月30日、31日にはステージ部門が町文化会館で開かれ、各部門から52団体が参加、出展し、日ごろの活動の成果と、美と技の秀作を余すところなく披露。沢山の人が芸術の秋をたんのうしました。

第20回益城町文化祭

展示部門では、華道、美術・工芸、茶道など幅広い分野で、地道に積み上げ花開いた力作を多数展示。その芸術性の高い作品の数々は、訪れた人の目をいつまでも引き付けていました。また、ステージ部門でも、奥田(益城中央小4年)と住永(太朗君(広安小6年)の童話発表、木山中学校吹奏楽部の演奏で幕を開け、邦・洋楽、日舞、民謡吟詠などで、参加者たちは芸術性の高い磨きぬかれた舞台を披露し、観客を魅了しました。



01_神楽子ども教室による榊の舞
02_丹精込めて作られた作品を楽しむ観客たち
03_お茶席も賑わいました